lead-off 11

言語力コンテストの開催と，その真のねらい

附属図書館長　　雨森 道紘

図書館ホームページに「言語力コンテスト」の内容が次のように示されています。

『言語力』とは，読む力・書く力・調べる力・伝える力を含めていいます。
弘前大学附属図書館は，学生の皆さんに『言語力』を養ってもらおうと，以下の２部門からなる言語力大賞コンテストを行ないます。

- 部 門
  - Ⅰ 文章表現のみによる部門
    短編小説（題材自由）
  - Ⅱ テーマを選択し，公開プレゼンテーションを含む部門（今回は次のテーマのみ）
    ー「世界に発信し，地域と共に創造する 弘前大学」（本学のモットー）のために本学の学生として何ができるかー

このコンテストは今回が始めての試みであることと，また発表が学期の始まりより少しずれたことなどや，広報活動が十分でなかったこともあり，一般に学生にまだ周知されていないことがあるようです。そこで，この欄ではこのコンテストに至った経緯などを含めて，このコンテストの目指すものについて詳しく紹介したします。

ことの発端は，昨年の国会超党派議員連盟からなる「文字・活字文化振興法案」の成立です。平成 17 年 7 月 20 日の朝日新聞社説記事によれば，『やはり読書が必要だ』という見出しで，一年前の文化審議会の答申「今後の社会では今まで以上に国語力が必要だ」という紹介も含めこの法案の必要性を述べています。例えば，大学生の採用試験で企業が最も重視するのは，コミュニケーション能力である。伝える力や聴く力の乏しい学生が少なくないからだ。言葉の力をつけるには，言葉と出会う機会を増やすに限る。それには本を読むことが欠かせない。読書は，「言葉の使い方をしり，漢字や慣用句を覚え，論旨を読み取り，展開の仕方を学ぶ。文化や歴史を学び，思考を伸ばし，想像力を磨く。…」。

はてさて，弘前大学にとってこの法案のよりインセンテブのある活用法は？　たどりついた先に待っていたのが『言語力コンテスト』となりました。これから毎年このコンテストを行うことを計画しています。

言語力コンテストの第一部門は，文章表現のみによる部門とし，今年度は短編小説のみとしましたが，

これからは他にエッセイ，書評，感想文など，文章表現に関わるものを全て対象として扱う予定です。

第二部門では，パワーポイントを用いたプレゼンテーション能力を競う内容となっています。これは，個人で参加することは勿論ですが，グループでの参加も可能なので，来年度（平成 18 年度）からの全てのゼミナールのグループが，基礎ゼミナールで，その目的の一つである，『課題発見能力を高めること』に自信を得たならば，ふるってこのコンテストに参加していただきたいと考えています。将来，学問研究を目指す人，また企業や社会での活躍を目指す人等，いずれの場合でも，言語を用いた確かなコミュニケーション能力ほど必要不可欠なものはありません。このような機会を大いに利用し，言語力に関する様々な能力を鍛えて頂きたいと考えています。

応募作品について

このコンテストの企画の発表が 17 年度後期となったにも拘わらず，今回小説部門には 12 編の作品が集まりました。作品については現在選考中ですが，中にはやはりウーンと唸らせる大賞にふさわしいと思われる傑作がいくつか存在しています。これらを数年分纏めれば将来「言語力コンテスト傑作小説集」としてわが大学の出版会からの単行本化も夢ではないかもしれません。

第１回弘前大学学生「言語力」大賞コンテスト　応募者一覧

	学　部	学 科 等	学 年	氏　　名	部 門	タ イ ト ル
1	人　文	社会システム	３年	斉藤　大輔	I	ゴドフリー・デリックの憂鬱
2	人　文	人間文化	１年	市毛　春奈	I	水中楽園
3	人　文	人間文化	３年	若林　由来	I	旅の石
4	人　文	社会システム	２年	野月　寛紀	I	春近し
5	人　文	人間文化	２年	田中　千晴	I	月曜日のユウウツ
6	教　育	生涯教育／地域生活	１年	柴田　詩織	I	ゆめわずらひ
7	教　育	障害児教育	３年	渡部　知也	I	カレン
8	理　工	電子情報システム工学	２年	渡辺　裕平	I	星形の雲
9	理　工	地球環境	３年	平塚　晋也	I	西日と葡萄
10	農学生命	生物生産科学	１年	龍田　和幸	I	思い出せ
11	農学生命	応用生命科学	２年	佐藤　　光	I	りんご
12	医	保健学科	１年	福地　　香	I	雪御伽
		計１２件				